



ぐるりちきゅうをひとまわり アジア・オセアニア編^{へん}

2012年7月発行 富山市立図書館

<http://www.library.toyama.toyama.jp/>

ひがし
東アジア



かんこく
韓国

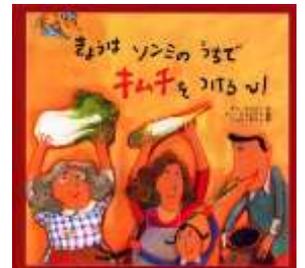
出国

01 AUG.2012

入国審査官 日本国
IMMIGRATION

きょうはソンミのうちでキムチをつけるひ！

チェ・インソン／文 パン・ジョンファ／絵 ピョン・キジャ／訳 セーラー出版
ソンミのうちのうらにわに、ねずみの一家^{いっか}がすんでいます。キムチのつけかたがわからないねずみたちは、こっそりソンミのまねをします。本のおわりに、キムチのれきしやしゆるいがのっています。〔幼児～〕



マンヒのいえ クォン・ユンドク／絵と文 みせけい／訳 セーラー出版

マンヒのかぞくは、広い家^{いえ}にひっこしをしました。マンヒが、むかしのどうぐがある「アンバン」（ざしき）やたくさんのカメがある「チャンドクテ」（カメおきば）など、家^{いえ}をあんないしてくれます。〔幼児～〕

ソリちゃんのチュソク イ・オクベ／絵と文 みせけい／訳 セーラー出版

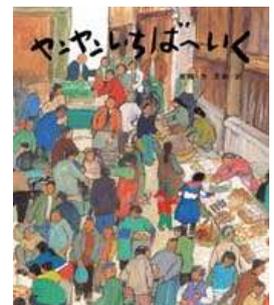
ソリちゃんは、チュソク（お盆^{ぼん}）に家族^{かぞく}といなかのおばあさんの家に行きます。つきたてのおもちやくだものをそなえ、しゅうかくのお礼^{おれい}をして、せんぞのはかまいをします。韓国^{かんこく}の風習^{ふうしゅう}や文化^{ぶんか}が伝^{つた}わります。〔幼児～〕



ちゅうごく
中国

ヤンヤンいちばへいく 周翔／作 文妹／訳 ポプラ社

今日は、おばあちゃんのたんじょう日。ヤンヤンは、おいわいのじゅんぴのために、舟^{ふね}にのって市場^{いちば}へ行きます。にぎやかな中国^{ちゅうごく}の市場のふうけいが伝^{つた}わります。〔幼児～〕



王さまと九人のきょうだい 中国の^{みんわ}民話

君島久子／訳 赤羽末吉／絵 岩波書店

としよりのふうふは、神^{かみ}さまから 9 人の子どもをさずかりました。神さまは、子どもたちに「ちからもち」「くいしんぼう」「ぶつてくれ」「みずくぐり」などの名まえをつけました。9 人は、とくぎをいかして、わるい王さまをやっつけます。〔小低～〕



白^{くろ}いりゅう黒いりゅう 中国のたのしいお話

賈芝／編 孫劍冰／編 君島久子／訳 岩波書店

大工のヤン名人は、「竜^{りゅう}が淵^{ふち}」にすむ黒いりゅうに子どもをさらわれてしまいます。ヤン名人は、白いりゅうを彫^ほってたましいを入れ、黒い竜にたたかいをいどみました。ほか、中国の少数民族^{みんぞく}に伝わる昔話 5 編。〔小中～〕

万里の長城 加古里子／文・絵 常嘉煌／絵 福音館書店

中国の北側にある平野に約 8,000km の長さにとり、長い壁が連なっています。いつ、誰が、何のために作ったのでしょうか？「万里の長城」をとおして、地球の誕生から文明の発展まで、人類の歴史を語ります。〔小高～〕



モンゴル

スーホの白い馬^{うま} モンゴル^{みんわ}民話

大塚勇三／再話 赤羽末吉／画 福音館書店

ひつじかいの少年スーホは、草原で白い子馬をたすけました。子馬はやがて、たくましく成長^{せいちよう}し、町のけい馬^ばたいかいで一とうになります。しかし、よくぶかい王さまが、馬をとりあげてしまいます。モンゴルの楽器^{がっき}・馬頭琴^{ばとうきん}のおはなし。〔小低～〕



ぼくのうちはゲル^{いどう} バーサンスレン・ボロルマー／絵・文 長野ヒデ子／訳 石風社

移動^{いどう}してくらす遊牧民^{ゆうぼくみん}の家に、赤ちゃんがうまれました。赤ちゃんの成長^{せいちよう}をとおして、遊牧民の 1 年間の生活をしょうかいします。〔小低～〕

とうなん
東南アジア



インドネシア

マンゴーとバナナ まめじかカンチルのおはなし

ネイサン・クマール・スコット／文 T・バラジ／絵 なかがわちひろ／訳 アートン

まめじかのカンチルとさるのモニェは、マンゴーとバナナを育てました。でも、木にのぼれるモニェがひとりじめ。カンチルとモニェのちえくらべのおはなし。〔幼児～〕

コモドっ！ ピーター・シス／作・絵 二宮由紀子／訳 ブックローン出版

ぼくは、^{きょうりゅう}恐竜が大好き。そんなぼくのために、父さんと母さんは、コモド島へ^{とうりこう}旅行することになりました。島には、ほんものの恐竜がいるのです。〔小低～〕

神様の階段 ^{かいだん} 今森光彦／著 偕成社

バリ島の^{たなだ}棚田とそこに住む人々のくらしや生き物の写真集。山にむかって重なる棚田は、山の神の住むアグン山へ続く「神様の階段」です。バリ島の人々は、土地にかんしゃし美しい自然を守ります。〔小中～〕



カンボジア

いたずらうさぎチュローチュ たじまゆきひこ／〔作〕 童心社

うさぎのチュローチュは、おじいさんのわなにかかっても、ワニに^ま食べられそうになっても、ちえをしぼってきりぬけます。〔幼児～〕



タイ

しーっ！ ぼうやがおひるねしているの

ミンフォン・ホ／作 ホリー・ミード／絵 安井清子／訳 偕成社

ぼうやが、ようやくひるねにつきました。そこへ、「ウィーン、ウィーン」とかすかな音。ぼうやを気づかって、お母さんが「しーっ！ しずかにしてね」とささやきます。ところが、ヤモリ、ネコ、^{すいぎゅう}水牛が つぎつぎにあらわれて音をたてます。タイの^{のうそん}農村の生活が^{つた}伝わります。〔幼児～〕



かさの女王さま

シリル・イム・ブリッジス／文 ユ・テウン／絵 松井るり子／訳 セーラー出版

タイでは、お正月に村いちばんの絵付けをした人が「かさの女王さま」としてえられます。ヌットは、今年はじめて絵付けの仕事をまかされました。〔幼児～〕



フィリピン

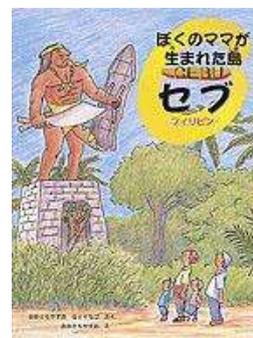
われたたまご フィリピン民話 小野かおる／再話・画 福音館書店

ミフウズラのふうふがるすの間に、たまごがぜんぶわれてしまいました。ふうふは、どうしてたまごがわれたのか、どうぶつたちにききまわりますが……〔幼児～〕

ぼくのママが生まれた島セブーフィリピン

おおともやすお／さく なとりちづ／さく おおともやすお／え
福音館書店

しょうたのかぞくは、フィリピンのセブ島でクリスマスをむかえました。しんせきがあつまり、日本のお正月のようににぎやかです。フィリピンのくらしが伝わります。〔小低～〕



マレーシア

カンポンのガキ大将 ラット／さく 荻島早苗／やく 末吉美栄子／やく 晶文社

マンガ家ラットは、マレーシアの小さな村で少年時代をすごしました。今から少し前のいなかの村のふうしゅうやくらしが伝わります。〔小中～〕



ミャンマー

アジア！イチャリバ、チョーデー アジアからの手紙

大貫美佐子／文 スズキコージ／絵 光村教育図書

ミャンマーとラオスの子どもたちが、ゆかいな手紙を書いてくれました。ミャンマーの女の子は、4月に行う新年を祝う行事、水かけ祭りの様子をおしえてくれます。〔小中～〕





ラオス

サルとトラ ラオス・モン族の民話

ヤン・サン／再話 ドゥア・リー／下絵 ヤン・ロン／刺繍
ヤン・イェン／刺繍 やすいきよこ／訳 福音館書店

トラは森のあばれもの。サルは、トラをやっつけようとあの手この手をつかいます。「トラさん、おもしろたいこをたたきませんか？」と、サルがゆびさしたのは、スズメバチの^す巣。
〔幼児～〕



アルメニア

きょうはよいてんき ナニー・ボグロギアン／さく あしのあき／やく ほるぷ出版

のどがかわいたきつねは、おばあさんのミルクをのみほしてしまいます。おばあさんはおこって、きつねのしっぽをきりとりました。おばあさんは、「ミルクをかえしてくれたら、しっぽもかえす」といいますが……。アルメニアの^{みんわ}民話をもとにした^{えほん}絵本です。〔幼児～〕



ウズベキスタン

ウズベクのむかしばなし シェルゾッド・ザヒドフ／編・再話 落合かこ／〔ほか〕訳 新読書社

中央アジアのまん中にあるウズベキスタンは、シルクロードの^{こうえき}交易でさかえました。ウズベキスタンに伝わる楽しい昔話集です。〔小中～〕



カザフスタン

六本足の子牛 カザフスタン共和国 森住卓／文・写真 新日本出版社

作者は、「6本足の子牛が生まれた」という話に興味を持ち、カザフスタンのボルネ村をたずねます。その村ではかつて、400回以上も^{かくじっけん}核実験がくりかえされていました。実験後20年過ぎた今も、人々は核の^{ひがい}被害におびえています。〔小高～〕

みなみ ちゅうおう にし
南アジア・中央アジア・西アジア



アフガニスタン

せかいいちうつくしいぼくの村 小林豊/作・絵 ポプラ社

ヤモがすんでいるのは、すももやさくらんぼがとれるうつくしい村。ヤモは、お父さんといっしょに、はじめて町のいちばへくだものをうりにいきます。[小低～]



アフガニスタンの少女マジヤミン 長倉洋海/写真・文 新日本出版社

4年生の少女マジヤミンから見た、アフガニスタン山間部にある村の生活を写真で紹介します。[小中～]

ソルハ 帯木蓬生/著 あかね書房

1996年、アフガニスタンの首都カブールは、タリバンに制圧されました。タリバンは、女性が勉強することを禁じ、人々の自由をうばう恐怖政治を行います。ビビは、家で隠れて勉強を続けながら、平和がくる日を待ちます。[中学～]

ジャミーラの青いスカーフ ルクサナ・カーン/作 もりうちすみこ/訳 さ・え・ら書房

タリバン政権崩壊後のアフガニスタン。ジャミーラは、母を亡くし、父と2人で町を転々とします。やがて、父は再婚しますが、再婚相手がジャミーラを気に入らないため、置き去りにされます。ジャミーラは、孤児院で初めて文字を学び自立していきます。[中学～]



イラク

ギルガメシュ王ものがたり

ルドミラ・ゼーマン/文・絵 松野正子/訳 岩波書店

ギルガメシュ王は、人々をどれいのように働かせ、世界一高い城壁を作りました。今から5000年以上前のメソポタミアで、ねんどばんに書かれた物語からつくられた絵本です。つづきに、『ギルガメシュ王のたたかい』『ギルガメシュ王さいごの旅』があります。[小低～]



バスの図書館員 イラクで本当にあった話

ジャネット・ウィンター／絵と文 長田弘／訳 晶文社

2003年、戦争がバスの町にせまりました。図書館員のアリアさんは、町の人たちに協力をよびかけ、図書館から3万冊の本を運び出します。〔小中～〕

ムスタファの村 イラク共和国 森住卓／文・写真 新日本出版社

湾岸戦争後、イラクでは白血病になる人が増え続けています。9歳の少年ムスタファもその1人。村には今も戦争の傷が残りますが、子どもたちは明るくくらしています。〔小高～〕



インド

ランパンパン インドみんなわ マギー・ダフ／さいわ ホセ・アルエゴ／え

アリアヌ・ドウィ／え 山口文生／やく 評論社

わがままな王さまに女房をさらわれたクロドリは、とげの刀をさし、クルミのからでかぶとをつくり、ランパンパンと太鼓をたたきながら、戦いの旅にでかけていきます。〔小低～〕



1つぶのおこめ さんすうのむかしばなし

デミ／作 さくまゆみこ／訳 光村教育図書

王さまは、ききんで苦しんでいる人々に、たくわえてあるお米を配ろうとしません。かしこい村娘のラーニは、知恵で王さまをやりこめます。さんすうにまつわるインドの昔話です。〔小中～〕



シリア

片手いっぱい星 ラフィク・シャミ／作 若林ひとみ／訳 岩波書店

1960年代の軍事クーデターが、頻発するシリア。パン屋の息子のぼくは、新聞記者になる夢を抱いています。当時の家庭や近所の人々の暮らしが伝わります。〔小高～〕



スリランカ

かさどろぼう シビル・ウェッタシンハ／作・絵 いのくまようこ／訳 徳間書店

村人たちは、雨がふるとバナナやいもの葉をかぶっていました。ある日、キリ・ママおじさんは、町ではじめてかさを見つけて買って帰ります。ところが、何度買っても、かさはぬすまれてしまいます。スリランカの小さな村に本当にあったお話です。〔小低～〕



きつねのホイティ シビル・ウェッタシンハ／さく まつおかきょうこ／やく 福音館書店

くいしんぼギツネのホイティが、おなかをすかせて村へやってきました。ホイティは、ほしてあったせんたくものを身につけ人間になりすまし、うまく食事しょくじにありつきますが…
…。[小低～]



トルコ

ナスレディンのはなし トルコの昔話むかしばなし

八百板洋子／再話 佐々木マキ／絵 福音館書店

トルコで広く語り伝えられている、ナスレディン・ホジャがかつやくするとんち話です。裁判官さいばんかんやお坊さんをやりこめる話など4つのお話がつまっています。[小低～]

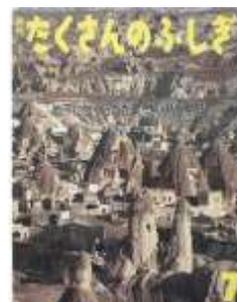


ギョレメ村でじゅうたんを織る 新藤悦子／写真・文 西山晶／絵 福音館書店

著者ちよしゆは、イスラム社会の暮らしを知るために、トルコのギョレメ村に行きました。じゅうたん織りを教えてもらいながら、畑しごとを手伝ったり、お祭りに参加したり、村の人たちといっしょに生活します。[小中～]

地下につくられた町・カッパドキア 大村次郷／文・写真 福音館書店

カッパドキア地方の大地は、雨や風にけずられてふしぎな形をしています。その地下には、迷路のように入りくんだ大きな都市が広がっています。[小中～]

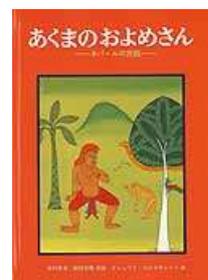


ネパール

あくまのおよめさん ネパールの民話みんわ

稲村哲也／再話 結城史隆／再話 イシュワリ・カルマチャリヤ／画 福音館書店

あくまにつかまったサルは、「およめさんをみつけてあげる」といのちごい。サルは、木できれいなにんぎょうをつくり、あくまをだまします。[幼児～]



プンクマインチャ ネパールの民話みんわ

大塚勇三／再話 秋野亥左傘／画 福音館書店

プンクマインチャは、ふたつあたまのヤギやネズミにたすけられ、鬼おにの宝物たからものを手にいれます。それをねたんだままはははは、じぶんのむすめにも宝をとりやらせませんが……。[幼児～]



だいすきなもの ネパール・チャウコット村のこどもたち 公文健太郎／写真 偕成社

ネパールの首都カトマンズからおよそ 30 キロにあるチャウコット村の子どもたちが、だいすきなものを教えてくれました。子どもたちの生活を写真でしようかいします。〔小低～〕

地球のてっぺんに立つ！エベレスト

スティーブ・ジェンキンズ／作 佐藤見果夢／訳 評論社

ネパールとチベットの境界にそびえる 8848 メートルのエベレスト山。地元の人々は、「神の山」としてうやまってきました。エベレスト山の歴史や気候、登り方までを切り絵で紹介します。〔小中～〕



パキスタン

イクバルの闘い 世界一勇気ある少年 フランチェスコ・ダダモ／作 荒瀬ゆみこ／訳 鈴木出版

パキスタンのじゅうたん工房では、子どもたちは朝から晩まで奴隷のように働かされていました。ある日、イクバルという少年が彼らの元に売られてきます。イクバルは、みんなを勇気づけ工房主に立ち向かいます。実話を元にした物語です。〔小高～〕



バングラディシュ

きんいろのしか バングラディシュの昔話

ジャラル・アーメド／案 石井桃子／再話 秋野不矩／画 福音館書店

ホセンは、よくばりな王さまに追われた、きんいろにかがやくしかをたすけます。それは、ひづめからきんがとびちるふしぎなしかでした。

〔小低～〕



リキシャ★ガール

ミタリ・パーキンス／作 ジェイミー・ホーガン／絵 永瀬比奈／訳 鈴木出版

ナイマは、10 歳の女の子。お父さんは、一日中お客さんをのせてリキシャを走らせています。お父さんを助けるために、ナイマは男の子をふりをして仕事を探します。バングラディシュの貧しい農村の物語です。〔小高～〕

オセアニア



オーストラリア

おおきなカエルディダリク オーストラリアアボリジニ・ガナイ族のお話

加藤チャコ／再話・絵 福音館書店

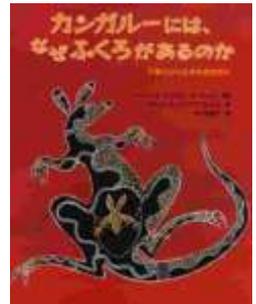
大きなカエルのディダリクは、だいへいげんの水をすっきりのみほしてしまいました。こまったどうぶつたちは、ディダリクをわらわせて水をふきだせようとかんがえます。[幼児～]

カンガルーには、なぜふくろがあるのか アボリジナルのものがたり

ジェームズ・ヴァンス・マーシャル／再話

フランシス・ファイアブレイス／絵 百々佑利子／訳 岩波書店

「虹色の大へびが大地をつくったはなし」や「カモノハシは、なぜとくべつな生きものか」など、オーストラリアの先住民アボリジナルの物語が集められています。[小中～]



ブルーバック ティム・ウィントン／作 小竹由美子／訳 橋本礼奈／画 さ・え・ら書房

静かな入江で、エイベルと母のドラは、海と大地の恵みで暮らしを立ててきました。ある日、エイベルは、巨大な青い魚「ブルーバック」と出会い夢中になります。エイベルは、「魚の考えていることがわかるようになりたい」と強く願うようになります。やがて、エイベルは、入江を離れ都会の大学へ進学しますが、故郷の海では、さまざまな災厄が起こり始めます。[中学～]



ツバル

地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル あなたのたいせつなものはなんですか？

山本敏晴／写真・文 小学館

ツバルの子どもたちが、たいせつなものを絵にかきました。美しい自然や、学校、人々のつながりなどを描く子や、島が沈んでいくことへの不安やゴミの問題を描く子どもがいました。[小中～]

ツバル 海拔1メートルの島国、その自然と暮らし

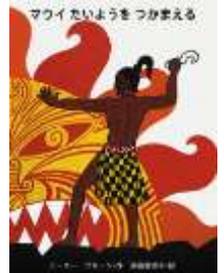
遠藤秀一／写真・文 国土社

ツバルの人々は、自給自足の暮らしをしています。その生活を写真で紹介した本です。『ツバル 地球温暖化、しずみゆく楽園』とともに、現在起きているツバルの問題についても書かれています。[小高～]



ニュージーランド

マウイたいようをつかまえる ピーター・ゴセージ/作 浜島代志子/訳 MOE出版
 むかし、たいようは今よりもっともっと早くうごいていました。またたくまにしずむので、よるがながく、マオリの人たちは、こまっていました。そこで、^{かみ}神さまの子マウイは、4人のにいさんたちとたいようをつかまえにいきます。
 [幼児～]



ハンター ジョイ・カウリー/作 大作道子/訳 マダジュンコ/画 偕成社

ニュージーランドの先住民族マオリ族の少年ハンターには、隠れて見えない動物を見通す不思議な能力がありました。ハンターは、強欲な主人たちから逃げようとします。その200年後の2005年、マオリ族の子孫であるジョーダン姉弟が飛行機事故にまきこれました。ハンターは、200年前の世界から子孫の危機を感じとります。[中学～]



パプアニューギニア

まじよのひ ^{むかしばなし}パプア・ニューギニアの昔話

大塚勇三/再話 渡辺章人/画 福音館書店

おおむかし、ブーゲンビルというしまでは、火をもっていたのは、山にすむまじよたちだけでした。犬、カエル、クスクス、オウムは、まじよから火をぬすみ、村人たちにとどけます。[幼児～]



マーシャル諸島

楽園に降った死の灰 マーシャル諸島共和国 森住卓/文・写真 新日本出版社

マーシャル諸島は、1954年にアメリカが行った核実験で、放射能をふくんだ「死の灰」をあびました。放射能は、半世紀以上たった今でも、美しい自然とともにくらす島民たちを苦しめています。[小高～]

南の島 カピングマランギ 長倉洋海/著 偕成社

小さな島々が集まるカピングマランギ環礁。海拔1メートルの島々は、温暖化の影響で沈みつつあります。豊かな自然の恵みとともに、穏やかにくらす人々の写真集です。[小高～]



ミクロネシア

おによりつよいおれまーい サトワヌ島^{とうみんわ}民話

土方久功／再話・画 福音館書店

おれまーいは、村で一ばんつよくてらんぼうものの男の子。村人たちは、おれまーいがこわくなって、おそろしいおにのいる島へおきざりにしてしまいます。〔幼児～〕

